

県立木曽病院の分娩に関する住民説明会 質疑応答概要

日時 令和7年3月16日(日)

13:30~15:45

場所 木曽合同庁舎 講堂

番号	意見・質問	回 答
1	(王滝村からの参加者) ○ 木曽病院が苦しい状況や、単に麻酔科医を確保すればということでないことがわかった。 ① お金の問題や木曽病院の勤務を希望する医師がいるのかなどの問題はあと思うが、<u>何をクリアしたら木曽病院で分娩ができるようになるのか。</u>	(濱野院長) ① 難しい問題だと思います。良いアイデアがあればお伺いしたい。 安心安全な分娩を継続するためには、麻酔科医だけではなく、産婦人科医、小児科医師3診療科が体制を整えないといけません。 麻酔科医の数は限られていて、いかに適正に配置するのかは、信州大学の麻酔科の教授が考えています。 その判断の元になるのは、各病院の全身麻酔の件数になります。残念ながら、木曽病院では全身麻酔の件数は確実に減ってきています。常勤の麻酔科医を木曽病院へお願いしてもかなうことはありません。 今は、麻酔科医の話をしました。小児科医、産婦人科医の確保も決して楽なことではありません。それも一緒に考えていく必要があります。
2	(木曽町からの参加者) ① <u>出産に関わる緊急搬送の件数の状況はどうか。</u> ② <u>分娩を再開させるための条件は何か。</u>	(濱野院長) ① 信州大学から麻酔科医が来ることになっていましたが、間に合わず産婦人科医が緊急に麻酔をかけて何とか乗り切った例がありました。 また、今年度に救急車の中で出産した例がありました。 搬送時間を短くする取り組みは進めていただく必要がありますが、ただ交通の改善は短時間でできることはありません。 北海道では、分娩時期が近づいたら分娩施設の近くで宿泊するのが当たり前になっています。個人的には、木曽でも宿泊費の補助だけではなく、宿泊施設の斡旋なども進めていただければと思います。 ② 再開の見込みは、極めて難しいと思います。医療体制は年々厳しくなっています。昨年4月からの「医師の働き方改革」もさることながら、2004年に臨床研修制度が

	③ 搬送時間を短時間にすることが、出産の安全につながるということだが、短時間で行けないところは産むなとしか聞こえない。その辺のフォローをお願いしたい。	創設されました。これによって、医師は国家試験に合格した後、2年間の研修期間を経て、3年目に自分の行きたい診療科を決めます。現在、卒業生の半分以上は大学の医局に残らない状況です。大学より都市部を中心とした民間の臨床研修病院の給料が高いため、そちらへ行ってしまう。医師の偏在、地域の偏在化は2004年から始まっています。卒業して、どの診療科を目指すかも、どこに住むかも自由です。それはどの業種でも同じことだと思います。 ③ご意見として承りました。
3	(王滝村からの参加者) ① 木曽病院で<u>全身麻酔を使う手術の件数が増え200件を超えれば、麻酔科医を配置してもらえるのか。</u>	(濱野院長) ① 手術件数は、人口減少の影響が大きいと思います。外科体制は4名となっていますが、以前に比べてできる範囲がどんどん狭くなっています。外科手術で多いのは、ヘルニアと虫垂炎（盲腸）となっています。 現在も厳しい手術については、ほとんど大学病院や伊那中央病院、中津川市民病院など大きな病院へ送らせていただいています。患者の安全を考えたときに、どこで手術するのが一番いいのかを考えています。 (西垣所長) 内視鏡などの技術が進んできていて、全国で外科手術が減少しています。 日本外科学会でも、外科医をどのように増やしていくか危機感を持っています。
4	(大桑村からの参加者) ○医師の半数以上が60歳を越えているということだが、来年、再来年とそれ以外の診療科の縮小につながるのではないかと懸念している。 ①今日は住民説明会が開催されたが、<u>自分たちの意見や不安などを伝えられる場がない。この説明会を、今後にどのようにつなげていくのか。</u>	(濱野院長) ① これまで、こうした機会がほとんどなかったことを反省しています。今後はいろいろな形でこうした機会を設けて、皆さんと話し合い、ご意見やアイデアをいただくことを続けていく必要があると思います。

5	(大北地域からの参加者) ○大北地域には、既に産科はない。 その結果、大北地域は深刻な人口減となっている。これは、木曽だけの問題ではなく長野県として人口問題をどうするのか。 ○安心安全に家の近くで出産することは何よりも大切なこと。交通費・宿泊費を出すということだが、出産できる要素にはならない。第2、3子の時は、誰が上の子を看てくれるのか。そうした問題を考えてほしい。 ①これを<u>木曽病院だけの問題としないで、長野県から国へ要請をしてほしい。</u> ○町おこし協力隊の医師バージョンについて私から提案したい。	(西垣所長) ①医師確保については、毎年、県健康福祉部から厚生労働省へ要望を行っています。 (若月参事) ①人口減少問題は、これからずっと続いていく問題だと考えています。それに伴い経済も減少していく恐れがあります。医師の偏在など資源が確保できないことについては、県の行政としても悩んでいるところです。 こうして皆さんとの意見交換をして、現状を国へ伝え、制度に反映できるよう問題を一つ一つ解決してきたいと思っています。
6	(木祖村からの参加者) ○昨年、木曽病院で出産している。木曽病院の厳しい状況は承知している。 ○分娩が安全では無くなるというのは最強の言葉。当事者の私からはコスパが悪いから他所で産んでくれよとしか受け止められない。説明の内容は理解できるが、到底納得はできない。 ①<u>補助は、正直ペラペラの内容。交通費8割何を言っているのかと思う。</u> ○妊婦健診など入退院費で年間10万円以上が負担となっている。扶養控除もなくなり、さらに遠くで産めと言われ、私たちの産みたい気持ちを踏みにじられている。 ②<u>医師の確保が厳しい状況が20年前から見えていたと思うが、この間どのような対策をしてきたのか。</u>	(古野事務局長) ①各町村とも、分娩に係る交通費・宿泊費の補助だけではなく、妊産婦さんたちがどのようなことを求めているのか。それぞれのケースを聞きながらできることを対応させていただくことだと思います。 第2子以降の分娩の際に誰が上の子をみるのかという意見もありましたが、各町村の保健師と連携しながらどのような支援が提供できるか検討させていただきたいと思います。 (濱野院長) ②確かに今まで医師確保をどうしていたのかと言われるとは思いますが。実際は毎年、次年度の医師をどう現状維持するか、少しでも信大に増員をお願いできるのが課題でした。 麻酔科医に関しては、私が来た当初から、将来的にこうなることは見えていました。そのため、毎年のように麻酔科の教授には相談をしてきました。 繰り返しになりますが、麻酔科医は県内には限られています。限られた医師をいかに適正に配置するかは県としては重要な視点になります。 人材派遣会社へ依頼しているが、問題もあるところです。

7	(木曽町からの参加者) ○ 木曽町は子供を育てやすい。 ① ママ友たちにも不安はあるが、説明会があることは承知しているがほとんど来ていない。子どもの昼寝の時間に重なる時間帯なので、<u>今後こうした場を設定する場合にはオンライン配信をしてほしい。</u> 住民たちと意見交換していきたいと考えているなら、お母さんたちの意見は取りこぼさないでほしい。 ○ 他県で出産した身内が、自然分娩を予定していたが、1カ月以上前に胎盤剥離となった。お母さんが、胎動がないときずき車で10分のかかりつけの病院で緊急帝王切開となり助かった。たぶん1時間という距離では間に合わなかったケース。 そうした不安があることを知ってほしい。	(西垣所長) ① Zoomでのオンライン配信も考えましたが、準備が間に合わず今回は対応できませんでした。 この説明会は、木曽広域ケーブルテレビに撮影をしていただいています。放送予定については、今後、住民の皆様へお知らせさせていただきます。 また、本日の資料については、明日以降当所のホームページに掲載させていただきます。 ○ 現状についてのご発言ありがとうございます
8	(木曽町からの参加者) ○ 娘が木曽病院で里帰り出産して、手厚い対応に感動した。 ○ 現状については理解できるが、この会場の皆様は納得されたのか。これで良いのかという思いがある。 ○ 院長が説明した内容が、日本や長野県、この町の現状であることを思うと切なくなる。過疎にますます拍車をかけることになる。 ○ 木曽町は、移住したいランキングの上位となっている。木曽病院は拠り所となっている。 ① <u>町村長はこのことをどのように受け止めているのか。発言いただければありがたい。</u>	(木曽町原町長) ① 理解はするが、納得できないというのはそのとおりだと思います。私も気持ちとしては同じですが、ある意味、現実も重く受け止めざるを得ない部分もあります。 今までも再三にわたり、県、県立病院機構、信州大学には、お願いに行っています。 現実的には厳しい現状を踏まえると認めざるを得ないのかという思いです。 ただ、病院には周産期医療に限らず、その他の診療科についても現状は維持してほしい。今後も県、国への要望は続けていきたいと思っています。 (大桑村坂家村長) ① 昨年10月に村長となり、その時の住民の皆さんとの約束は、人口減少はある程度は減っていくことを認めざるを得ないが、そのスピードを少しでも遅くしたいということ。 それには、子育て環境の整備などを進めて行かなければいけない。それが第一の私の仕事だと思っています。 先ほど補助制度では弱いという意見がありました。私も確かにそう思うので、これから各町村と連携を図りながら、できるだけ体制は整えさせていただきたいと思っています。

9	(南木曾町からの参加者) ① <u>県立病院機構の病院が、県内には他にもあるが、そこから麻酔科医などの派遣はできないのか。</u> ② 先ほどからの質問、意見を聞いて、中止ありきで話が進んでいる。 地域の子育て世代や妊産婦の意見が取り入れられていない。 広い木曾地域で、木曾病院での分娩がなくなることは、子どもを産むなと言っているようにしか聞こえない。<u>ぜひ、分娩体制を維持してほしい。</u>	(濱野院長) ① 県立病院機構は、木曾病院を含めて5病院があります。病院同士でいろいろな連携を図っているところですが、正直に言って医師がその間で異動するなどの実績はございません。これは、県立病院機構だからということではなく県内の他病院も含めてそうしたことはないと思います。 例えば、信州医療センターの医師に木曾病院へ一年間行ってほしいと機構内で決定して、それを伝えた時に、分かりましたとは簡単にいかない時代になってきています。 人事というのは、その医師の意向を聞いて納得してもらわないと、場合によっては辞めてしまう。 診療科や勤務地を選ぶのは医師本人の自由になっている。国は、医師の偏在化も含めて検討を進めて行くことになっており期待はしています。 (西垣所長) ② ご意見として受け止めさせていただきます。
10	(大桑村からの参加者) ○ 私は長男を東京の病院で出産したが、機械的なものだった。その後、木曾病院で出産を経験し、同室の産婦と一緒に祝い膳を食べた。今でもその方とは仲良く過ごさせてもらっている。 ① 休止が決定しているところから話が進んでいるが、県や町村では、<u>国・県に分娩が維持できるように働きかけをしているという認識で良いか。</u>	(濱野院長) ① 皆さんの受け止めとしてはどうしてこのタイミングでいきなり相談もなくというのは正直なところだと思います。 県へ具体的に相談をしたのが、昨年2月です。令和8年度に厳しい状況をお話しました。そのときにどういう形で住民の皆様へ伝え、相談をしていけばよいのか悩みました。 もちろん、ギリギリまで分娩継続を諦めているわけではないですが、ただ、何も手を打たずに、令和8年4月から無理ですと直前になってお伝えするということはもっと皆さんには失礼なことになってしまいます。

	② 私自身この木曽で子育てを楽しんでいる。この住環境や自然のすばらしさを医師の求人サイトなどで紹介してはどうか。 各町村で分担金を出しあって住宅を整備するなど夢のある話ができる場を作ってほしい。	(西垣所長) ②ご意見として受け止めさせていただきます。
11	(南木曾町からの参加者) ○ 県も病院も一生懸命やっていたいていると思う。この問題を全国の問題にしていくことが必要。 ① <u>国が進めている地域医療構想が本当に正しいのかと問われている</u>と思う。 コロナ禍で病院の経営が黒字になったとあった。これは国がきちんと手当すれば地方病院はちゃんと生きていけることを示したと思う。<u>これについては意見を言うていく必要がある。</u> 出産は命の問題。国際的には30年前から人口開発会議で30年前から出産における死亡率を下げている。医師不足も国の無策からきている。県、町村長、私たちも一緒に国、厚労省に直接行って話をしたいがそうしたことはできないか。	(久保田課長) ① 地域医療構想は、2025年に向けたあるべき医療提供体制を構築するために進めているものです。また、現在、国においては、2040年に向けた新たな地域医療構想の検討が進められております。 ご指摘いただいたとおり、この地域の実情をしっかりと国に伝えていく必要があると考えています。 病院は、公定価格が決められている診療報酬制度の中で、運営されています。 地域の医療がしっかりと維持できるように、長野県としても木曽だけの問題ではなく県全体の問題として、しっかりと国に対して、地域医療提供体制の確保をお願いしていくのでご理解をいただきたいと思います。
12	(大桑村からの参加者) ○ 今回の説明会は非常に大きなものであったと思う。こうした説明会は過去にも例がなく開催に当たり行政の方も複雑な思いがあったと思う。しかし、実際は不安の声しか上がってこない。病院現状などを知るためのいい機会であったと思う。 住民の反応に真摯に向き合っていただき感謝したい。 ○ 皆さんの意見では、理解はできるが、納得はできないとのこと。この説明会を、今後を考えるスタートラインにしたい。 ① 行政だけに任せてどうにかするのではなく、<u>病院の情報を出していただき住民も一緒になって考えることが大事ではないか。</u> ○ 不安は情報がないことに直結している。濱野院長が言うとおおり、しっかり決めてから落とさないと不安を呼ぶ気持ちもわかるが、この一年間は積極的に情報をオープンにしたい。	(濱野院長) ① 今までこうした機会がなかったことについては申し訳なく感じています。 今後は、住民の皆さんと忌憚のなく意見交換ができる場を作っていく必要があると思っています。

	② <u>住民に対する情報発信の仕方を今まで以上に工夫してもらいたい。広域連合のホームページに特集ページを作るなど、地域のお母さんたちがアクセスする場所をはっきりさせる。</u>みんなが考えるためには一番重要なポイントになるので検討してほしい。 ○ 病院の問題は、皆さんの命にかかわる問題なので、仕方がないと思わしき停止してはいけない問題だと考へている。 これから住民を交えて適応策についてもしっかりと話し合って足並みを揃えていただければ。	(古野事務局長) ② 広く情報公開という意見がありましたので広域連合ホームページでも保健福祉事務所と情報共有して広く皆さんに周知していきたいと考へています。
--	---	--